

平成 28 年度子ども霞ヶ関見学デー

「特定非営利活動法人全国検定振興機構加盟団体による
検定試験体験プログラム」報告書



特定非営利活動法人 全国検定振興機構

1. 「検定試験体験プログラム」実施概要

日 時 : 2016年7月27日(水)・7月28日(木) 10時~16時

場 所 : 文部科学省東館 3F 2 特別会議室

目 的 : 検定試験の社会的活用を促進する取組みの一環として開催する。

内 容 : 来場する親子に民間検定試験について知ってもらうため、検定試験の体験や取り組みの紹介をする。体験をすると、同じ会場に設営された駄菓子屋でお菓子やおもちゃを買うことができるエコマネーがもらえる「だがしや楽校」を実施し、検定団体と参加者の関わりを深める。

体験対象者 : 来場者誰でも可能

主 管 : 文部科学省 生涯学習政策局生涯学習推進課

主 催 団 体 : 特定非営利活動法人 全国検定振興機構

協 力 団 体 : 特定非営利活動法人 教育支援協会南関東

参考 : 「子ども霞ヶ関見学デー」について

「子ども霞ヶ関見学デー」は、文部科学省をはじめとした26府省庁等が連携して、業務説明や省内見学などを行うことにより、親子のふれあいを深め、子供たちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、各府省庁等の施策に対する理解を深めてもらうことを目的とした取り組みです。職場見学のほか、各府省庁等の特色を生かし、子供たちを対象に広く社会を知る様々なプログラムを設け、一斉に「子ども霞ヶ関見学デー」として実施します。当日は、子供たちの興味に合わせて霞ヶ関を自由に歩くことができるよう、参加者に各府省庁等のプログラムと地図が入った「霞ヶ関子ども旅券」(パスポート)を配付。平成28年の文部科学省プログラムでは、115団体(パネル展示、1日参加含)が参加しました。

2. 運営組織

| | | |
|--------------------|--------|--------------------|
| 統括責任者 | 鈴木 菜津美 | 特定非営利活動法人全国検定振興機構 |
| 運営責任者 | 青木 一弥 | 特定非営利活動法人全国検定振興機構 |
| 駄菓子屋責任者 | 岩崎 道子 | 特定非営利活動法人教育支援協会南関東 |
| だがしや楽校紹介 ブース責任者 | 田中 靖子 | 特定非営利活動法人全国検定振興機構 |

3. 当日の様子

① 参加出展団体と実施内容

| NO | 団体名 | 実施内容 |
|----|---------------------------|---|
| 1 | 学校法人 香川栄養学園 (家庭料理技能検定) | ①ゲーム「何をどれだけ食べたらいいの？」～食べ物をグループに分けてみよう！～魚つり形式で食品を釣って、どの食品群グループになるのかあてる ②パネル展示・ポスター掲示 ③実技対策DVDの放映 |
| 2 | 公益社団法人 色彩検定協会 | ①減法混色を体験しようワークショップ～画用紙に綿棒で絵の具3色(CMY)を混ぜて、どのように変化するか観察する ②テキスト、通信教育、過去問題集の展示 |
| 3 | 特定非営利活動法人 世界遺産アカデミー | ①世界遺産の写真パネル～みんなの行きたい世界遺産ランキングをつくろう ②世界遺産の前で記念写真を撮ろう ③世界遺産ノートを作ろう |
| 4 | 一般財団法人 中央工学校生涯学習センター | ①トレース技能本試験問題体験型として、まなびー（イメージキャラクター）を実際にトレースしてみよう ②トレースの展示 《27日のみ出展》 |
| 5 | 公益財団法人 日本編物検定協会 | ①毛糸で作る簡単ストラップ作り体験 ②ポスター・受験の手引の展示、パンフレット配布 |
| 6 | 公益財団法人 日本英語検定協会 | ①英検 Jr. オンライン版の体験コーナー ②実用英語技能検定（英検）にチャレンジ ③かんたん級測定/PC画面で問題を数問解いていくことで現在の英検レベルを測定 |
| 7 | 特定非営利活動法人 日本語検定委員会 | ①日本語検定ミニテストを解いてみよう（解答後に日本語検定委員が採点、解説） ②パネル展示：日本語検定概要・日本語検定問題・日本語検定問題、日本語検定テキストの展示 ③「にほんご」になって写真撮影 ④パンフレット、リーフレット、日本語大賞チラシの配布 |
| 8 | 公益財団法人 日本数学検定協会 | ①数学検定の過去問題をやってみよう ②検定資料の展示・配布 |

② 各ブースの様子

入口

だかしや楽校紹介ブース

出口

日本数学検定協会



日本英語検定協会



駄菓子屋



日本編物検定協会



色彩検定協会



日本語検定委員会



世界遺産アカデミー



香川栄養学園



中央工学校生涯学習センター
(27日のみ)

③ プログラム体験者数

エコマネー流通枚数 6,439 枚 (27日 3,207 枚、28日 3,232 枚)

出展団体ごとのエコマネー流通枚数一覧 (単位 枚)

| 団体名 | 27日 | 28日 | 合計 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 日本数学検定協会 | 525 | 564 | 1,089 |
| 日本編物検定協会 | 292 | 254 | 546 |
| 色彩検定協会 | 280 | 261 | 541 |
| 日本語検定委員会 | 284 | 624 | 908 |
| 日本英語検定協会 | 451 | 452 | 903 |
| 香川栄養学園 | 506 | 631 | 1,137 |
| 世界遺産アカデミー | 367 | 446 | 813 |
| 中央工学校学習センター | 502 | 実施なし | 502 |
| 合計 | 3,207 | 3,232 | 6,439 |

注 団体による枚数の違いは、体験1回にかかる所要時間の違いによる。

プログラム体験者のべ人数 3,219 人 (27日 1,603 人 28日 1,616 人)

注 エコマネーより算出 (1体験につき2枚を配付)

参考：「子ども霞ヶ関見学デー」文部科学省来場者数 (27年度・28年度) (単位：人)

| 人数 | 平成28年度来場者数 | | | 平成27年度来場者数 | | |
|-----|------------|-------|-------|------------|-------|-------|
| | 合計 | 子ども | 引率者 | 合計 | 子ども | 引率者 |
| 1日目 | 2,453 | 1,408 | 1,045 | 2,235 | 1,297 | 938 |
| 2日目 | 2,475 | 1,423 | 1,052 | 2,403 | 1,381 | 1,022 |
| 総数 | 4,928 | 2,831 | 2,097 | 4,638 | 2,678 | 1,960 |

4. 実施後アンケート結果

対 象 : 各出展団体 (8 団体)

回 答 数 : 8 団体、10 名回答 (注 1 団体から 3 名の回答あり)

設問 1 このイベントに参加して団体にメリットがあったと思いますか

注：回答数は団体数、() 内は回答した人数

| | とてもメリッ トがあった | メリットがあ った | どちらとも言 えない | あまりメリッ トがなかった | 全くなかった |
|-----|-----------------|--------------|---------------|------------------|--------|
| 回答数 | 7 (8) | 1 (1) | 1 | 0 | 0 |

その理由

- ・参加した子ども達や保護者に楽しんでもらえた
- ・普段交流が少ない他団体との交流ができた/他団体の様子が分かった
- ・直接受検者の声を聴いたり、反応を見ることができた/学年のレベルを知ることができた
- ・保護者との情報交換ができるよい機会となった
- ・自分たちの団体や検定試験の広報になった/特に小学生やその保護者に広報できた
- ・職員の良い経験になった/スタッフのモチベーションアップにつながった
- ・公益法人としての役割を果たせた

設問 2 このイベントに参加するにあたり、団体内で困ったことはあったか

- ・事前配布資料の準備や時間と場所の制限があるなかでのプログラム内容の企画立案
- ・参加者数の見立て
- ・スタッフの確保
- ・当日の誘導に手間取った

設問 3 今回の運営で改善したほうが良いと思うことはありますか

- ・提出書類の締め切り日の設定 (準備期間が短かった)
- ・小学生以下の子どもが体験できる企画の準備
- ・エコマネーの配付ルールの再考 (各体験の時間との配付枚数との関係など)
- ・会場の広さの確保 (ブースが狭い、資材置き場の確保)
- ・机・椅子の数を増やしてほしい (机は普通の会議テーブルが使いやすい、椅子の予備が欲しかった)
- ・レイアウトの工夫 (導線の確保)
- ・より多くの人に来場してもらうための周知

設問 4 だがしや楽校の手法を取り入れたことはどの様に感じたか。子ども達とのエピソードなどもあったら具体的に記入下さい

- ・体験のよい動機になった/子どもたちのモチベーションが高まった
- ・思ったより駄菓子だけが目当ての子どもが少なかった/駄菓子目当ではなく、検定体験への意欲が感じられた/ご褒美としての駄菓子は効果がある
- ・一部エコマネー欲しさに何度も体験した子がいたために、他の子どもの時間がなくなった

- ・配付枚数は1人1枚でも良かったかもしれない
- ・体験している兄弟を尊敬のまなざしで見上げる弟妹がほほえましかった
- ・1日目に体験した子どもが楽しかったと2日目も来てくれた
- ・心配していたが男女関係なく参加してくれた

設問5 来年も同じイベントがあったら参加したいと考えますか

注：回答数は団体数、()内は回答した人数

| | とても参加したい | 参加してもいいと思う | どちらともいえない | あまり参加したくない | 全く参加したいと思わない |
|-----|----------|------------|-----------|------------|--------------|
| 回答数 | 5 (5) | 4 (5) | 0 | 0 | 0 |

設問6 次回への提案や要望などあったら記入下さい

- ・いずれこのイベントを拡大して、多くの学習者の役に立てればいい
- ・配付するエコマネーの枚数を変えてモチベーションを高める
- ・スタンプラリー形式にして導線をスムーズにさせる
- ・会場の広さの確保、備品の要望の改善

5. まとめ

今年、始めて「子ども霞ヶ関見学デー」に、文部科学省後援名義を取得している当機構の加盟団体8団体の協力を得て検定試験体験プログラムを開催しました。体験をしてくれた子ども達にご褒美として駄菓子屋で買い物ができるエコマネーを渡す「だがしや楽校」の手法を取り入れて実施することになりましたが、開催前には、お菓子を子どもをつることになるのではないかという懸念がありました。しかし、結果的には、駄菓子目当てだけで体験参加をする子どもはほとんどなく、参加団体の担当者からはエコマネーがうまく子どもたちのモチベーションを上げていたという感想が多くあり、子どもたちが一生懸命体験している姿が印象的だったとの感想がほとんどでした。エコマネーはご褒美としてうまく活用することができることが共有できました。

開催両日を通じ、検定試験体験プログラムを実施した会場は大盛況で、楽しかったからと2日目にも来場してくれる親子も多かったようです。多くの方々に来場いただき、検定試験のことを知っていただくという当初の目的は達成できたと考えております。

参加団体からは、自分たちの職員にとっても良い機会になったことや直接受検者やその保護者と話できたなどの想定していなかったメリットがあったようですし、今回のイベントに参加することで、普段、交流がもてない団体同士の交流の機会にもなったようです。参加団体には無理をお願いして当日の駄菓子屋のブースの手伝いにも参加していただきましたが、子ども達と直接関わりをもって貰え、楽しんでいただけたのではないかと思います。

来年も引き続き参加を希望する団体が多く、見学に来たいいくつかの検定団体からも参加できるのであれば検討したいと言われております。来年度に向けては、「会場の広さ」「備品の数」などの改善ができるようにし、レイアウトやエコマネーの配付方法など、今年参加された団体からいただいた貴重なご意見を踏まえて企画案を再考し、他の検定団体にも多く参加してもらえるような企画に発展していくことができればと考えます。

6. 各団体の振り返りの会報告

日 時： 平成 28 年 8 月 30 日（火）16 時～18 時

場 所： 全国検定振興機構 理事長室

出席者： 5 団体 5 名（敬称略）

色彩検定協会（山中雄市）

世界遺産アカデミー（猪俣浩太郎）

日本編物検定協会（有泉有子）

日本数学検定協会（登石明紀）

日本語検定委員会（萩原民也）

全国検定振興機構 吉田理事長、田中事務局長、鈴木

① 参加団体からの報告と感想

アンケートの内容と同じく、参加して良かったという意見がほとんどであった。子どもたちが模擬体験をする現場を肌で感じる事ができ、また、保護者と話す機会が持てたこと、職員の良い研修になったことなどがメリットとして上がっていた。まだまだ検定自体の認知が低いものもあり、特に小学生やその保護者に検定について知ってもらう良い機会になったようである。当日参加した団体のスタッフも子どもたちの熱心な態度に驚き、笑顔に癒されたと、スタッフの方々からも意見があったようだ。

当日は、予想以上の参加人数のために、それぞれのブースでは、一人でも多くの子どもたちが体験できるように体験の時間を短くできるような工夫もして対応した。参加人数が多かったことは喜ばしいことだったが、もっと広い会場で机や椅子ももう少し多いほうが良かったというのは一致した意見だった。

今回は準備期間が短かったために、十分な準備ができなかったため、次回からは、もう少し早めに開催に情報をもらうことができれば、今回の経験も踏まえて改善したいところがたくさんあるようだった。また、情報をもっと早くもらうことができれば、プレスリリースをするとか、各団体の広報媒体を使って宣伝するなどができ、より多くの人に参加してもらえたという意見も一致していた。

エコマネーの配付については、アンケートの回答同様、肯定的な意見が多かった。ただし、配り方や配る枚数など、さらなる工夫を重ねていく余地がありそうだ。

② 来年度に向けて

来年度に向けての課題としては、やはり、スペースや備品の問題、大勢の参加者に体験を提供する工夫などがあがっていた。しかし、体験の時間を短くして多くの人に体験してもらうことのみを第一目標とすることに対する疑問もあり、年齢等に応じた体験の種類を考えることも必要だという意見も一致していた。

子どもを引率してくる保護者へのアプローチについても、保護者向けのプログラムを作るなど考えることができそうであるし、保護者対応のスタッフを配置して、より検定試験についての理解を深めてもらうこともできそうである。子どもの体験に保護者が口出ししすぎることの心配もあったが、半数くらいの保護者は子どもたちを上手にヘルプしていて、スタッフが個別に見守れない状況を補佐してくれていた。また、予想以上に多かった幼児は、今のプログラムでは体験ができなかったが、幼児向けの体験プログラムを準備するなどの工夫の余地がありそうだった。

今回参加した団体には、多くのメリットがあったので、来年度からは、今回参加しなかった団体にも声をかけ、より多くの団体が参加するようなものにしていき、検定試験の社会的活用の促進を協力しながら推し進めていきたいという希望がある。もちろん、その場合は、今回以上の大きな会場も必要であるし、だがしや楽校の手法を取り入れるのであれば、その予算の捻出も必要になってくる。しかし、検定試験業界の団体が協力しあい、同じ方向を向いて社会に発信していくことはとても重要であり、その機運を作る一歩としてこのようなイベントを合同開催することは大変有意義であることも確認できた。

いずれは、検定フェスティバルのような独立したイベントへと発展できるように、毎年、少しずつネットワークを広げ、ノウハウを蓄積していければいいと考える。

7. まとめ

現在進められている大学入試改革に伴い、今後は、大学入試の一つとして民間の検定試験を活用する需要が高まっていくと思われる。その時には、民間検定試験の第三者評価の重要性が今以上に増してくることは明らかである。そのため、組織・運営評価のみならず、内容についても厳しく評価される時代になってくると考えられる。つまり、民間検定の質的向上が今以上に大きな社会的課題になることを考えると、ますます、検定試験団体が連携し、互いに情報共有をしながら、目標に向かって協力しあうことが重要になる。また、このような取組みについて、社会に発信していくことも重要になってくる。

さらに、教育も従来の教科の能力を判断するのではなく、横断的教科の能力を測定することが重要になってきていることを踏まえると、横断的教科に対応できるような検定試験の提案も民間で行っていくことが必要になってくる。また、現在の教科に直接関わりがないような検定についても、その検定試験でどのような子どもの能力・技能を測定できるものなのかについて、民間側からの発信提案できるようにすることも重要である。今後は、検定試験が入試のみならず、生涯学習における指標として活用される社会の実現に向けて、様々な提案の発信が求められてくるものと考えられる。

重要度を増す民間の検定試験の社会的価値の向上に向けては、まずは、私たち関係者の情報共有と意識変革そして、さらには、社会への発進力を高めることが急務である。

検定団体が協力して実施する今回のイベントは、上記の目標を達成するために手段として効果があったと考えられる。今後も、我々全国検定振興機構が中心となり、加盟団体のネットワークをより一層強めていきたいと考えている。

将来的には、検定団体が一同に介し、社会に発信できるようなイベントを実現させることを目標にして、来年度は今年の課題を踏まえ、さらにバージョンアップして是非とも参加をしたいと考えている。

特定非営利活動法人

全国検定振興機構

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-20-10

TEL : 03-3539-3821

FAX : 03-3539-3822

Mail : info@zenken.or.jp